



この連続切片を頭側から尾側に向かって観察すると、第十四体節の尾側にもう1対の体節が識別された。従ってこの胎児は15対の体節を持つ胎児であった。第十五体節の尾側では内側中胚葉に分節化は認められなかった。このことから、この胎児の日令は24日または25日と推定された。

写真撮影:顕微鏡はオリンパス BH-2、対物レンズは S-Plan-Apochromat 10 (NA=0.40)、S-Plan-Apochromat 20 (NA=0.70)と S-Plan-Apochromat 40 (NA=0.95)、写真投射レンズは NFK 2.5 LD である。

この胎児に関する詳細な報告が『Mizoguti, H.: A Fifteen-somite Human Embryo. *Advances in Anatomy, Embryology and Cell Biology*, Vol. 116, 1989. Springer-Verlag』として出版されている。





























































































































この連続切片を頭側から尾側に向かって観察すると、第十四体節の尾側にもう1対の体節が識別された。従ってこの胎児は15対の体節を持つ胎児であった。第十五体節の尾側では内側中胚葉に分節化は認められなかった。このことから、この胎児の日令は24日または25日と推定される。























































































































